

## 総合講義（I）

コーディネーター：口腔医学講座 予防歯科学分野 岸光男教授  
：医療工学講座 武本真治教授  
：解剖学講座 機能形態学分野 藤原尚樹教授  
担当講座（分野）：歯学部専門教育担当教員

第5学年 前期・後期

講義  
通期 216.0時間

### 学修方針（講義概要等）

4年生までに歯科医学の基礎系科目および臨床系コースでの講義と実習を通して、歯科医学の基礎知識を学修してきている。5年生では臨床実習を通してこれまでに習得している科学的な根拠となる基礎知識を確認し、歯科臨床との関わりを理解することが重要である。総合講義（I）では、基礎系科目と臨床系科目との有機的な結びつきを深めることで、臨床実習での専門的知識への理解度を深め、総合的な歯科医学の見識を深めることを目的とする。本講義を通じて、スチューデントデンティストとして臨床実習の実践に必要な知識を中心に講義を行う。

### 教育成果（アウトカム）

臨床実習において診療参加型実習を実践している中で、科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践するために、歯科医学臨床に直結する内容で今までに学んだ専門分野の知識を振り返り、知識と技能の融合を行う。（ディプロマ・ポリシー：1、2、5、7、8、9）

### 事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各講義に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全講義に対して該当するものとする。第4学年までに修了している各系統講義で用いた学習資料（教科書、レジメ等）の該当項目に関して、予め事前学習を行った上で、講義に出席すること。講義終了後は、教科書や事前学習教材を利用し、事後学習を必ず行うこと。

### 特記事項・その他

講義資料は必要に応じてWebClassにアップロードする。事前および事後に当該科目のDESS演習を活用する。同日受験総合試験（第6年生総合試験）では、卒業まで見据えて個人に不足している知識の確認を行う。週間復習試験ではその週に受講した講義内容についての習熟度の確認を、月間復習試験では該当月間に受講した講義内容を中心とした習熟度の確認を行う。

講義日程

【臨床試験①(3月28日)、臨床試験①解説講義(3月29日～4月1日)】

【歯科医師に必要な必修領域、一般領域、臨床実地領域の知識確認ならびに勉強の仕方(4月1日～4月2日)】

【必修試験①(4月7日)、必修試験②(4月20日)、必修試験①②解説講義(4月23日～5月7日)】

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
3月28日 (月)  午後		臨床試験①	
3月29日 (火)  1,2限	菅 徹也助教 (う蝕治療学)	修復領域臨床問題 歯内の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して歯内領域の臨床実地問題を解くことができるようになる。 [E-3-3]-(2) [E-3-3]-(1) 事前学習: 国家試験出題基準の修復、歯内領域の臨床部分を読んでおくこと。
3月29日 (火)  3,4限	志賀華絵助教 (う蝕治療学)	歯内領域臨床問題 歯内の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して歯内領域の臨床実地問題を解くことができるようになる。 [E-3-3]-(2) [E-3-3]-(1) 事前学習: 国家試験出題基準の修復、歯内領域の臨床部分を読んでおくこと。
3月29日 (火)  5,6限	八重柏隆教授 (歯周療法学)	歯周領域臨床問題 歯周領域の臨床問題について理解する。	試験解説を通して歯周領域の臨床問題を解くことができる。 [E-3-2]-(3)④、E-3-3]-(3)-①～⑤ 事前学習: 歯周について3年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
3月30日 (水)  1限	田邊憲昌准教授 (補綴・インプラント学)	クラウンブリッジ補綴学領域臨床問題 クラウンブリッジ補綴学領域の臨床問題について理解する。	試験解説を通してクラウンブリッジ補綴学領域の臨床実地問題を解くことができるようになる。 [E-3-4]-(1)]
3月30日 (水)  2限	高藤恭子助教 (補綴・インプラント学)	臨床試験の解説と傾向を理解する。	1. 臨床試験で問われたインプラント領域の歯科医師に必要な知識を説明できる。 [E-3-4]-(3)]
3月30日 (水)  3,4限	鬼原英道教授 (補綴・インプラント学)	有床義歯 臨床試験解説 有床義歯学の臨床領域について理解する。	1. 試験解説を通して有床義歯学領域の臨床実地問題を解くことができるようになる。 [E-3-4]-(2)] ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習: 講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
3月30日 (水)  5,6限	桑島幸紀講師 (歯科矯正学)	<b>歯科矯正領域の臨床問題</b> 歯科矯正学領域の基本的 事項について理解する。	1. 試験解説を通して矯正領域の臨床問題を 解くことができるようになる。 [E-4-1)-(1)-①~⑦] 事前学習：歯科矯正学の臨床問題についてま とめ、各自の弱点ならびに疑問点を抽出する こと。
3月31日 (木)  1,2限	齊藤桂子助教 (小児歯科学)	<b>小児歯科学領域臨床試験 問題の解説</b>  小児歯科学領域の基本的 事項について理解する。	1. 試験解説を通して小児歯科学領域の臨床問題 を解くことができる。  [E-4-2)-①~⑫]  事前学習：小児歯科学領域の臨床問題を確認し ておく。  アクティブラーニング：講義中に教員とのデ ィスカッションの機会を設ける。
3月31日 (木)  3,4限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔領域臨床試験問 題1</b> 歯科麻酔の臨床一般領域 について理解する。	1. 試験解説を通して歯科麻酔領域の臨床実 地問題を解くことができるようになる。 [E-1-4)、E-1-6)、E-6-②] 事前学習：国家試験出題基準の歯科麻酔領 域の一般領域部分を読んでくること。
3月31日 (木)  5,6限	泉澤充准教授 (歯科放射線 学)	<b>放射線領域の勉強法</b> 臨床実地問題に必要な放 射線領域の勉強法を見つ ける ことができる。	1. 歯科放射線領域の臨床実地問題に必要な知 識を修得することができる。  [E-1-2]-①~⑨]
4月1日 (金)  1、2、3限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	臨床試験①解説講義 口腔外科領域の臨床問題 について理解する。	1. 臨床試験①の試験解説を通して口腔外科領 域の臨床問題を解くことができるようにな る。 [A-3-①~⑥]
4月1日 (金)  4限	鬼原英道教授 (補綴・イン プラント学)	<b>歯科補綴学領域の国家試 験の傾向と勉強法</b> 歯科補綴学領域の国家試 験問題を理解し、勉強法を 見つけることができる。	1. 今春の歯科補綴学領域の国家試験問題を 通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることがで きる。 [E-3-4)-(1)、E-3-4)-(2)-①~⑭] 事前学習：国家試験過去問題に目を通して講 義に臨むこと。
4月1日 (金)  5,6限	佐藤俊郎講師 (予防歯科学)	<b>予防歯科学領域の勉強法</b> 予防歯科学領域学習目標と それに対する、勉強法を見 つけることができる。	1. 予防歯科学領域に求められる学力の水準を 説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることがで きる。 [A-2-1)-①~⑤] 事前学習：歯科医師国家試験に回答して講義 に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月2日 (土)  1限	原田英光教授 (発生生物・再生医学)	<b>組織学の国家試験傾向と対策</b> 組織学領域の基本的な内容について、統合的かつ体系的に整理、理解できるようになる。	1. 国家試験問題の解説と傾向を理解する。  事前学習：事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。また問題集については各自で解答して理解不足の点を抽出しておくこと
4月2日 (土)  2,3限	山田浩之教授 (口腔外科学)	<b>口腔外科領域の試験の傾向と勉強法</b> 口腔外科領域の試験問題を理解し、勉強法を見つけることができる	1. 今春の口腔外科領域の試験問題を通して傾向を説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることができる。 [ [A-3-①～⑥]
4月7日 (木)  午前		<b>必修試験①</b>	
4月20日 (水)  午後		<b>必修試験②</b>	
4月23日 (土)  1限-1/2	藤原尚樹教授 (機能形態学)	<b>肉眼解剖学・歯の解剖学の基本的内容のまとめ</b> 必修問題に必要な肉眼解剖学と歯の解剖学について体系的に整理・理解する。	1. 肉眼解剖学領域に必要な基本的項目を列挙し、説明できる。 2. 歯の解剖学領域に必要な基本的項目を列挙し、説明できる。 [E-2-1)-①～⑥⑩, E-2-2)-①～④、⑥, E-3-1)-②] 事前学習：必修試験の該当領域および過去5年の歯科医師国家試験に出題された類似問題を元にまとめノートを作成しておくこと。講義でその問題及び関連事項についてフィードバックする。
4月23日 (土)  1限-1/2	大津圭史准教授 (発生生物・再生医学)	<b>組織・発生学の重要領域のまとめ</b> 組織・発生学の重要領域を確認し、適切な対策を立てることができるようになる。	1. 組織・発生学の重要領域について説明できる。 2. 組織・発生学領域における自分自身の弱点を認識し、自分にあった勉強法を見つけることができる。 [E-2-2)-①、E-2-3)-①] ICT 端末を持参すること。 事前学習：事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。また問題集については各自で解答して理解不足の点を抽出しておくこと。
4月23日 (土)  2限-1/2	成田欣弥講師 (病態生理学)	<b>必修試験 解説講義</b> 必修問題に必要な一般生理学、口腔生理学の項目を列挙できる。	1. 歯科医師として必要な生理学領域の必修知識を説明できる。 2. 試験解説を通して生理学領域の必修問題を解くことができる。 [C-3-4)-(4)-①、C-3-4)-(5)-②～④、⑦～⑨、C-3-4)-(9)-①②] 事前学習：生理学の基本的事項について、1・2年次の生理学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月23日 (土)  2限-1/2	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	<b>生化学領域の必修知識</b> 生化学の重要項目ならびに唾液の成分やホルモンの機能について理解する。	1. 歯科医師として必要な生化学領域の必修知識を理解する。 2. 唾液成分の由来や機能について説明できる。 3. ホルモンの性状や受容体について説明できる。 [C-1-1)、C-2-1)、C-2-4)、E-2-2)] DESS 演習の準備をしておくこと。 事前学習: 到達目標の内容に関し教科書で調べて講義に臨むこと。
4月23日 (土)  3限-1/2	入江太朗教授 (病態解析学)	<b>必修試験1 解説講義</b> 病理学総論の重要項目について体系的に整理・理解する。	1. 歯科医師として必要な病理学領域の必修知識を説明できる。 2. 循環障害、増殖と修復について説明できる。 [C-5-1)~3)] ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習: スタンダード病理学 p74-109, p42-60 を読み、疑問点を抽出しておくこと。(60分を要する)
4月23日 (土)  3限-1/2	下山佑准教授 (分子微生物)	<b>微生物学・免疫学必修1 (必修講義)</b>  歯科医師として習得すべき微生物学・免疫学の基本的な知識や特に重要な必修項目を理解する。	1. 必修試験の結果から見えてきた微生物学・免疫学領域に関する理解が不十分な領域を説明できる。 アクティブラーニング: ディスカッション方式の講義を行う。 ICT: 講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習: 過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。 [A-5-3]-①, ②, C-3-1]-①~③, ⑥, C-3-2]-①~⑦, E-2-4)-(9)-②, ③, E-1-4)-⑥, ⑧, E-2-4)-(3)-①, E-3-2]-①~⑤]
4月25日 (月)  1限-1/2	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>薬理学必修知識1</b> 歯科医師として修得すべき薬理学の基本的な事項について理解する。	1. 試験解説を通して薬理学領域の必修問題を解くことができるようになる。 [C-6-1)-①~③, C-6-2)-①~⑤, C-6-3)-①②, C-6-4)-①②] 事前学習: 過去5年間の国家試験の薬理学に関連する必修問題について学習しておくこと。
4月25日 (月)  1限-1/2	武本真治教授 (医療工学)	<b>歯科理工学必修試験解説講義</b> 歯科理工学領域の基本的な事項について理解する。	1. 歯科理工学領域の基本的知識を説明できる。 [D-1, D-2] 事前学習: 2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートの必修試験2で出題された問題に関連する項目に目を通して講義に臨むこと。講義中随時知識確認のための質問とフィードバックを行う。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月25日 (月)  2限	岸 光男教授 (予防歯科学)	<b>必修の基本事項 2</b> 予防歯科学領域の必修の基本事項についての重要性を理解する。	1. 社会歯科学領域の必修の基本的事項の重要性を概説できる。 2. 臨床予防歯科学領域の必修の基本的事項の重要性を概説できる。 [A-1、A-3～7、B-2、3] 事前学習：必修試験問題の疑問点を整理しておくこと。講義中、適宜質疑応答を行う。
4月25日 (月)  3限-1/4	熊谷章子准教授 (法歯学・災害口腔医学)	<b>法歯学・災害口腔医学必修</b> 法歯学・災害口腔医学の必修領域について理解できる。	法歯学・災害口腔医学の基本的事項を列挙し説明できる。 [A-1-3)-④、A-4-2)-⑦、A-6-1)-⑦、A-6-2)-①、A-7-1)-⑥、B-2-2)-⑥⑨、B-2-3)-①②、C-5-7)-①、E-4-2)-⑩、E-5-1)-⑩] 事前学習：必修試験で出題された内容を講義ノートと教科書で確認しておくこと（所要時間30分以上）。
4月25日 (月)  3限-1/4	菊池和子講師 (小児歯科学・障害者歯科学)	<b>障がい者歯科 1</b> 各論復習 1	1. 障害者歯科の社会的問題、行動調整について述べるができる。 [B-2-2)-①、E-5-2)-①～④、F-3-7)-②] 事前学習：4年の講義ノートと教科書に目を通して講義に臨むこと。
4月25日 (水)  3限-1/4	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>内科学領域必修問題 1</b> 内科学の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して内科領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-6-①～③] 事前学習：内科学に関する国家試験問題を確認し講義に臨むこと。
4月25日 (月)  2限-1/4	工藤義之准教授 (う蝕治療学)	<b>一般教養問題</b> 一般教養領域の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して一般教養領域の必修問題を解くことができるようになる。 [A-9] DESS 演習の準備をしておくこと。 事前学習：国家試験出題基準の一般教養領域必修部分を読んでくること。
5月2日 (月)  1限	志賀華絵講師 菅徹也助教 千田弥栄子助教 (う蝕治療学)	<b>修復・歯内・総合領域必修問題</b> 総合歯科の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して総合領域の必修問題を解くことができるようになる。 [A-4、A-5] 事前学習：国家試験出題基準の修復領域必修部分を読んでくること。
5月2日 (月)  2限	八重柏隆教授 (歯周療法学)	<b>歯周領域必修問題①②</b> 歯周領域の必修問題について具体例を参考に理解する。	1. 試験解説を通して歯周領域の必修問題を解くことができる。 [E-3-2)-③④、E-3-3)-③)-①～⑤] 事前学習：歯周について3年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
5月2日 (月)  3限	斎藤裕美子助教 (補綴・インプラント学)	<b>クラウンブリッジ学領域必修問題</b> クラウンブリッジ補綴学領域の必修問題について理解する。	1. 試験解説を通してクラウンブリッジ補綴学領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-3-4)-(1)]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月2日 (月)  4限	米澤悠助教 (補綴・インプラント学分野)	<b>補綴領域必修解説</b> 有床義歯学の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して有床義歯学領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-3-4)-(2)] ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：講義内容について教科書と4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
5月2日 (月)  5限	間山寿代准教授 (歯科矯正学)	<b>歯科矯正領域の必修問題</b> 歯科矯正学領域の基本的事項について理解する。	1. 試験解説を通して矯正領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-4-1)-(1)-①～⑦] 事前学習：歯科矯正学の必修問題についてまとめ、各自の弱点ならびに疑問点を抽出すること。
5月2日 (月)  6限	齊藤桂子助教 (小児歯科学)	<b>小児歯科学領域必修問題</b> 小児歯科学領域の基本的事項について理解する。	1. 試験解説を通して小児歯科領域の必修問題を解くことができる。 [E-4-2)-①～⑫] 事前学習：過去5年分の小児歯科領域の必修問題を確認しておく。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
5月7日 (土)  1限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	<b>必修試験①②解説講義</b> 口腔外科領域の必修問題について理解する。	1. 必修試験①②の試験解説を通して口腔外科領域の必修問題を解くことができるようになる。 [A-3-①～⑥]
5月7日 (月)  2限	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔領域必修問題1</b> 歯科麻酔の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して歯科麻酔領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-1-4)、E-1-6)、E-6-②] 事前学習：国家試験出題基準の歯科麻酔領域の必修部分を読んでくること。
5月7日 (土)  3限 (11:00～12:00)	泉澤充准教授 (歯科放射線学)	<b>放射線領域の基本1</b> 放射線領域の基本的な項目について修得する。	1. 放射線領域の基本的な項目を列挙し、説明できる。 [E-1-2)-①～⑨]

講義日程 (1 限 : 8:40~9:40、 2 限 : 9:50~10:50、 3 限 : 11:00~12:00、 4 限 : 13:00~14:00、  
5 限 : 14:10~15:10、 6 限 : 15:20~16:20、 7 限 : 16:30~17:30、 8 限 : 17:30~18:30)

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4 月 19 日 (火)  1 限 (8:40~9:40)	岸光男教授 (予防歯科学)	<b>必修の基本事項 1</b> <b>予防歯科必修試験①解説</b> 必修問題に必要な社会歯科学、公衆衛生学、口腔衛生学の項目を列挙できる。	1. 必修問題に特異的な出題基準を列挙できるようになる。 2. 必修問題を通して一般、臨床問題に共通する基礎的知識を把握できるようになる。 [A-1、A-2、A-5、A-6、B-1~4] 事前学習:必修試験①の予防歯科関連問題を想起して学習課題を整理しておくこと。講義中随時知識確認のための質問とフィードバックを行う。
4 月 19 日 (火)  2 限 (9:50~10:50)	八重柏隆教授 (歯周療法学)	<b>歯周領域必修問題, 一般問題, 臨床実地問題</b> 歯周領域の必修問題, 一般問題, 臨床実地問題について具体的出題例を参考に理解する。	1. 歯周領域必修問題, 一般問題, 臨床実地問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 臨床実地問題への有効な取り組み方を具体的に概説できる。 3. 歯周領域学習方法の要点を説明できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①②③] 事前学習:ザ・ペリオドントロジー3版、臨床歯周病学3版で復習しておく。
4 月 19 日 (火)  3 限 (11:00~12:00)	佐藤和朗教授 (歯科矯正学)	<b>矯正歯科学 1</b> <b>顎顔面の成長発育</b>	1. 口腔の発生について説明できる。 2. 頭蓋の成長について説明できる。 3. 上顎の成長について説明できる。 4. 下顎の成長について説明できる。 [C-3-2)-③④] 事前学習:歯科矯正学 p14~65 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
4 月 19 日 (火)  7 限 (16:30~17:30)	山田ありさ助教 (病態制御学)	<b>抗炎症薬</b> 歯科診療を行う上で必要な抗炎症薬を理解する。	1. 抗炎症薬の作用機序を説明できる。 2. 抗炎症薬の副作用を説明できる。 [C-6-2)-②、C-6-4)-①] 事前学習課題:作用機序と副作用についてまとめておくこと。
4 月 26 日 (火)  1 限 (8:40~9:40)	下山佑准教授 (分子微生物学)	<b>微生物学総論</b> 病原微生物の生物分類学上の位置づけおよびその性状を理解する。	1. 微生物の構造・性状について説明できる。 2. 感染の概念と感染症について説明できる。 3. 宿主-寄生体相互作用について説明できる。 [C-3-1)-①②、E-2-4)-(3)-①、E-2-4)-(9)-②] 事前学習:過去 5 年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題を学習しておく。
4 月 26 日 (火)  2 限 (9:50~10:50)	菅 徹也助教 (う蝕治療学)	<b>齲蝕 歯内療法学 1</b> <b>診査・診断</b>	1. 歯内療法に必要な診査法を説明できる。 2. 歯内疾患の診断ができる。 3. 診査に必要な器具と使用方法を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習:歯髄疾患の診査診断について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬歯内治療学)にて確認する。



月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月26日 (火)  3限 (11:00~12:00)	橋口大輔助教 (小児歯科学・ 障害者歯科学)	小児歯科学1 <b>小児の心身の発育</b> 小児の成長発育を理解する。	1. 小児の年齢を正しく評価できる。 2. 小児の身体的発育を正しく評価できる。 3. 小児の精神発達段階を説明できる。 4. 小児の生理的特徴を理解できる。 [C-3-2)-④] 事前学習：小児の心身の発育について教科書に目を通して講義に臨むこと。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
4月26日 (木)  7限 (16:30~17:30)	泉澤充准教授 (歯科放射線学)	<b>放射線領域の基本1</b> 放射線領域の基本的な項目について修得する。	1. 放射線領域の基本的な項目を列挙し、説明できる。 [E-1-2)-①~⑨]
5月10日 (火)  1限 (8:40~9:40)	下山佑准教授 (分子微生物学)	<b>口腔細菌</b> 口腔の正常フローラ、口腔細菌の性状および病原因子を学び、齲蝕・歯周疾患・歯内疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔のニッチとその構成細菌について説明できる。 2. 口腔病原微生物の特徴と病原因子について説明できる。 3. 齲蝕の成立機序について説明できる。 4. 歯周炎の成立機序について説明できる。 5. 歯内疾患の成立機序について説明できる。 [A-5-3)-①②、C-3-1)-①~③⑥、E-1-4)-⑥⑧、E-2-4)-③-①、E-3-2)-①~⑤] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。
5月10日 (火)  2限 (9:50~10:50)	清水峻介助教 (う蝕治療学)	<b>齲蝕 保存修復学1</b> <b>齲蝕</b>	1. 齲蝕歯質において除去すべき歯質を説明できる。 2. 齲蝕において残すべき歯質を説明できる。 3. 齲蝕検知液について説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：齲蝕の診査診断について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
5月10日 (火)  3限 (11:0~12:00)	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学1</b> 局所麻酔法 局所麻酔法を学ぶことで歯科治療時の局所麻酔の重要性を理解することができる。	1. 局所麻酔の目的を説明できる。 2. 局所麻酔の特徴を説明できる。 3. 局所麻酔添加薬(血管収縮薬)を説明できる。 [E-1-4)-(3)] 事前学習：到達目標の内容に関し臨床歯科麻酔学第6版(第4章1、第5章1~4)を用いて調べる。所要時間30分以上。
5月17日 (火)  1限 (8:40~9:40)	岸 光男教授 (予防歯科学)	<b>疫 学1</b> 疫学の基本的考え方を学ぶことで、診療、地域補年に対する論理的な方略を策定できるようになる。	1. 疫学の研究方法を列挙できる。 2. 歯科領域の疫学調査方法を概説できる。 [B-4-1)-①-③] 事前学習：2年時衛生・公衆衛生学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月17日 (火)  2限 (9:50～10:50)	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	<b>唾液の生化学</b> 唾液の成分とその作用について理解する。	1. 唾液成分を列挙し、その作用を説明できる。 2. 唾液中の酵素の働きを説明できる。 3. 唾液中の抗菌因子の作用機序を説明できる。 [C-2-4)-①③、C-3-4)-(2)-④⑤] 事前学習:到達目標の内容に関し教科書で調べて講義に臨むこと。
5月17日 (火)  3限 (11:00～12:00)	佐藤和朗教授 (歯科矯正学)	<b>矯正歯科学2</b> <b>矯正治療における診断</b>	1. 口腔模型について説明できる。 2. セットアップ模型について説明できる。 3. エックス線検査について説明できる。 4. 機能検査について説明できる。 [E-4-1-③] 事前学習: 歯科矯正学 p145～174 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
5月17日 (火)  7限 (16:30～17:30)	山田ありさ助教 (病態制御学)	<b>抗腫瘍薬</b> 歯科診療を行う上で必要な抗腫瘍薬を理解する。	1. 抗腫瘍薬の作用機序を説明できる。 2. 抗腫瘍薬の副作用を説明できる。 [C-6-2)-②、C-6-4)-①] 事前学習課題: 作用機序と副作用についてまとめておくこと。
5月24日 (火)  1限 (8:40～9:40)	原田英光教授 (発生生物・再生医学分野)	<b>上皮総括的理解～その構造と機能破綻を考える</b> <b>&lt;口腔疾患と全身1&gt;</b> 上皮・結合組織の基本的な構造・機能とその破綻によって引き起こされる疾患との関連を理解できるようになる。	1. 上皮の基本的構造が説明できる。 2. 上皮の細胞と細胞間接着装置について説明できる。 3. 細胞間接着装置に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる。 [C-2-4)-③、C-3-4)-(1)、C-3-4)-(2)-②、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤] 事前学習:細胞間接着装置・細胞外基質に関連した疾患について、最新口腔外科学第5版を用いて事前に学修しておくこと。
5月24日 (火)  2限 (9:50～10:50)	山谷元気講師 (口腔外科学)	<b>唾液腺疾患</b> 唾液腺疾患の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明する。 2. 唾液腺の腫瘍性疾患を説明する。 3. 唾液腺の閉塞性を説明する。 [E-2-4)-(8)] 事前学習: 口腔外科学第3版医歯薬出版 P377～429 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
5月24日 (火)  3限 (11:00～12:00)	米澤悠助教 (補綴・インプラント学分野)	<b>有床義歯学1</b> 部分床義歯に必要な知識を整理して床義歯製作手法を理解する	1. 部分床義歯の各操作の目的を説明できる。 2. 部分床義歯製作術式を説明出来る [E-3-4)-(2)-①～⑭] 事前学習:義歯製作における精密印象採得について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月24日 (火)  7限 (16:30~17:30)	澤田智史准教授 (医療工学)	<b>印象用材料/模型用材料</b> 歯科臨床で使用する印象用材料について学ぶ。	1. 歯科臨床における印象材の選択基準を説明できる。 2. 印象材の種類とタイプを説明できる。 3. 歯科臨床における印象材の用途を説明できる。 4. 印象材の成分・組成と硬化機構および性質を説明できる。 5. 模型材の種類と特徴を説明できる。 [D-1-②③、D-2-②] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
5月31日 (火)  1限 (8:40~9:40)	下山佑准教授 (分子微生物学)	<b>免疫学</b> 免疫応答による生体防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞について説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 3. 主なサイトカインとその生物活性について説明できる。 4. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 5. 各過敏症の発症メカニズムと代表的な疾患について説明できる。 6. 主な免疫不全症の発症機序と疾患について説明できる。 7. 自己免疫疾患発現に関与する因子と代表的な自己免疫疾患について説明できる。 [C-3-2)-①~⑦、E-2-4)-(9)-③] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。
5月31日 (火)  2限 (9:50~10:50)	中里茉那美助教 (歯周療法学)	<b>歯周病の検査、診断（要点1）</b> 歯周病のリスクファクターから歯周病の発症、進行を理解する。歯周病の検査方法および必要な診断能力等を身につける。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題を概説できる。 3. 歯周領域の要点を説明できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①②③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨床歯周病学3版で復習しておく。
5月31日 (火)  3限 (11:00~12:00)	黒瀬雅之教授 (病態生理学)	<b>顎顔面の感覚（味覚）</b> 顎口腔領域の特殊感覚である味覚について学ぶことで、歯科医師として摂食・嚥下の機能遂行に関与する感覚の意義を理解できる。	1. 味物質の種類を説明出来る。 2. 味覚の受容機構を説明できる。 3. 味覚の相違を生む背景となる味物質の特性を説明出来る。 4. 味覚の伝導路を説明できる。 [E-2-2)-⑩、C-3-4)-(6)-①] 事前学習：該当箇所について、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
5月31日 (火)  7限 (16:30~17:30)	岸 光男教授 (予防歯科学)	<b>疫学2</b> 疫学の基本的考え方を学ぶことで、診療、地域補年に対する論理的な方略を策定できるようになる。	1. 疫学のリスク指標を算出できる。 2. 歯科領域の疫学調査方法を概説できる。 [B-4-1)-①-③] 事前学習：2年時衛生・公衆衛生学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月7日 (火)  1限 (8:40~9:40)	佐藤泰生講師 (病態解析学)	口腔粘膜疾患	1. 水疱性病変について説明できる。 2. 赤色病変について説明できる。 3. 潰瘍性病変について説明できる。 4. 白色病変について説明できる。 5. 黒色病変について説明できる。 6. 舌炎・口唇炎について説明できる。 7. ウイルス性・細菌性感染症について説明できる。 [E-2-4)-(4)-①②] 事前学習：新口腔病理学 p143-161, p283-291 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
6月7日 (火)  2限 (9:50~10:50)	山田浩之教授 (口腔外科学)	口腔粘膜疾患 口腔粘膜疾患の症状、診断、治療法を習得する。	1. 口内炎やアフタの症状、治療法について説明する。 2. 水疱性疾患、ウイルス性疾患の症状、治療法について説明する。 3. 角化性疾患、色素沈着などの口腔粘膜疾患の症状について説明する。 [E-2-4)-(6)] 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版 P163~182 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
6月7日 (火)  3限 (11:00~12:00)	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	CT・MRI・US 検査 顎顔面領域の適切な診断を行うため、各種診断装置の原理と適応について理解する。	1. CT 値、部分容積効果について説明できる。 2. 歯科用コーンビーム CT と X 線 CT の画像形成原理と適応を説明できる。 3. CT で用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 4. MRI の画像形成原理と適応について説明できる。 5. MRI で用いられる造影撮影の目的と造影剤使用禁忌を列記できる。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説明できる。 7. PET 検査、核種について説明できる。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明できる。 [E-1-2)-⑤⑨] 事前学習：各種画像診断装置の原理、適応を事前に学習し、まとめておくこと。
6月14日 (火)  1限 (8:40~9:40)	原田英光教授 (発生生物・再生医学分野)	結合組織の総括的理解～ その構造と機能破綻を考 える <口腔疾患と全身2> 結合組織の基本的な構造・ 機能とその破綻によって 引き起こされる疾患との 関連を理解できるように なる。	1. 結合組織の基本的構造が説明できる。 2. 結合組織の細胞成分と細胞外マトリックスについて説明できる。 3. 結合組織に異常を来す先天性疾患を列挙して、その病因を説明できる。 [C-2-4)-③、C-3-4)-(1)、C-3-4)-(2)-②、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤] 事前学習：細胞外基質に関連した疾患について、最新口腔外科学第5版を用いて事前に学修しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月14日 (火)  2限 (9:50~10:50)	清水 峻介助教 (う蝕治療学)	齲蝕 保存修復学 2 診査・診断	1. 齲蝕の診査法を説明できる。 2. 齲蝕の診断ができる。 3. 急性齲蝕と慢性齲蝕の違いを説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-(7)] 事前学習：齲蝕の診査診断について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。
6月14日 (火)  3限 (11:00~12:00)	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	歯科麻酔学 2 麻酔の偶発症 局所麻酔時の偶発症とそのメカニズムを学ぶことで偶発症の対処法を理解することができる。	1. 局所麻酔および歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。（神経性ショック、過換気症候群、アナフィラキシー、局所麻酔中毒、血管収縮薬に対する反応、メトヘモグロビン血症） 2. ショックを説明できる。 [E-1-4)-(3)-⑤、C-5-4)-⑥] 事前学習：到達目標の内容に関し臨床歯科麻酔学第6版（第5章5、第12章）を用いて調べる。所要時間30分以上。
6月14日 (火)  7限 (16:30~17:30)	森川和政教授 (小児歯科学・障害者歯科学)	小児歯科学 2 歯列・咬合の発育 歯列および咬合の発育を歯の交換の観点から理解する。	1. 切歯交換期の特徴を説明できる。 2. 側方歯群交換期の特徴を説明できる。 [E-2-3)-③] 事前学習：歯列・咬合の発育(歯の交換)について教科書に目を通して講義に臨むこと。アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
6月21日 (火)  1限 (8:40~9:40)	八重柏隆教授 (歯周療法学)	歯周外科と根分岐部病変 (要点 2) 歯周外科（組織付着療法、再生療法、歯周形成外科、根分岐部病変の処置等）を中心に要点を理解する。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題を概説できる。 3. 歯周領域の要点を説明できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①②③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨床歯周病学3版で復習しておく。
6月21日 (火)  2限 (9:50~10:50)	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	ホルモンの生化学 ホルモンの構造と作用機序を理解する。	1. 細胞膜受容体と細胞内受容体について説明できる。 2. ペプチドホルモンとステロイドホルモンの作用機構を説明できる。 3. プロテインキナーゼによる細胞内情報伝達機構を概説できる。 [C-2-4)-②、C-3-4)-(9)-①] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で調べて講義に臨むこと。
6月21日 (火)  3限 (11:00~12:00)	菅 徹也助教 (う蝕治療学)	齲蝕 歯内療法学 2 歯髄炎	1. 歯髄腔の解剖学的特徴を説明できる。 2. 炎症の病態を説明できる 3. 高齢者の歯髄変化が説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：歯髄炎について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）にて確認する。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月21日 (火)  7限 (16:30~17:30)	菊池和子講師 (小児歯科学・ 障害者歯科学)	障がい者歯科2 各論復習2	2.各障害者（知的障害、自閉スペクトラム 症、注意欠如・多動症、限局性学習症、 脳性麻痺、てんかんなど）について述べ ることができる。 [E-5-2)-①~④] 事前学習：4年の講義ノートと教科書に目 を通して講義に臨むこと。
6月28日 (火)  1限 (8:40~9:40)	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>薬理学総論</b> 歯科診療を行う上で必要 な薬理学的知識を理解す る。	1. 薬物動態を説明できる。 2. 副作用・相互作用を説明できる。 [C-6-2)-⑤、C-6-3)-②、C-6-4)-①] 事前学習課題：総論の要点についてまと めておくこと。
6月28日 (火)  2限 (9:50~10:50)	黒瀬雅之教授 (病態生理学)	<b>嚥下</b> 摂食嚥下機能の維持は QOL を保つ上で歯科医師 として重要な役割である。 正常時での嚥下機能を学 び、嚥下機能の意義を理解 出来る。	1. 嚥下に関与する器官および嚥下時に生じ る運動を説明できる。 2. 嚥下の神経機構を説明できる。 3. 鼻咽腔閉鎖機能について説明できる。 4. 嚥下の5期について説明できる。 [E-2-1)-⑨⑩⑪] 事前学習：該当箇所について、レジメ、講義ノ ートに目を通して講義に臨むこと。
6月28日 (火)  3限 (11:00~12:00)	小林琢也教授 (摂食嚥下・口 腔リハビリテー ション学)	摂食嚥下リハビリテーシ ョン① 摂食嚥下のメカニズムと 摂食・嚥下障害の検査法と 診断を理解する。	1. 摂食嚥下のメカニズムを説明できる。 2. 摂食嚥下の5期モデルについて説明でき る。 3. 摂食嚥下障害のスクリーニングテストに ついて説明できる。 4. 摂食嚥下障害の精密検査について説明で きる。 [E-5-1)-⑧⑨]  事前学習：老年歯科医学 p 299~325、歯学 生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 2~156 を読み、疑問点を 500 字程度に疑 問点をまとめておくこと
6月28日 (火)  7限 (16:30~17:30)	James Hobbs 教授 (外国語学科英語 分野)	<b>Chair side conversation 1</b> 英語圏の患者に対し歯科 治療を行う際に必要なコ ミュニケーション力を習 得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①] 事前学習：3D 専門英語テキストを復習してお く。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
7月5日 (火)  1限 (8:40~9:40)	藤原尚樹教授 (機能形態学)	印象採得に関わる解剖学 印象採得に必要な口腔内の構造について理解する。	1. 印象採得に関連する口腔内あるいはそれを裏打ちする解剖学的構造について説明できる。 2. 口蓋～口蓋帆の構造と裏打ちする骨や筋の走行について説明できる。 3. 咀嚼筋とその付着部と印象採得時に注意すべき点について説明できる。 [E-2-1)-③][E-2-2)-①]  配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。  事前学習：口腔内の解剖学的特徴・咀嚼筋・口蓋帆の筋の走行についてまとめておくこと。DESS に提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
7月5日 (火)  2限 (9:50~10:50)	佐藤宏明助教 (補綴・インプラント学)	有床義歯学 2 全部床義歯に必要な知識を整理して床義歯製作手法を理解する	1. 全部床義歯の各操作の目的を説明出来る。 2. 全部床義歯製作術式を説明出来る。 [E-3-4)-(2)-①~⑭] 事前学習：義歯製作における精密印象採得について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
7月5日 (火)  3限 (11:00~12:00)	高藤恭子助教 (補綴・インプラント学)	口腔インプラント学 1 インプラント外科について治療の流れを理解する。	1. インプラント治療の検査方法と診断について説明できる 2. インプラント 1 次手術および 2 次手術の流れを説明できる。 3. インプラント外科に必要な器具、材料を列挙できる。 [E-3-4)-(3)-①~③⑤] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
7月5日 (火)  7限 (16:30~17:30)	James Hobbs 教授 (外国語学科英語分野)	Chair side conversation 2 英語圏の患者に対し歯科治療を行う際に必要なコミュニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーションが取れる。 [A-7-2)-①] 事前学習：Chair side conversation 1 の講義資料を復習しておく。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
7月12日 (火)  1限 (8:40~9:40)	藤原尚樹教授 (機能形態学)	<b>咬合と歯の形態</b> 咬合について歯の形態との関係から理解する。	1. 前歯部の上顎・下顎の歯の形態的特徴から咬合について説明できる。 2. 臼歯部の上顎・下顎の形態的特徴から咬合について説明できる。 3. 歯の排列の特徴について説明できる。 [E-3-1)-②]  配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。  事前学習:各歯の解剖学的特徴についてまとめておくこと。DESSに提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
7月12日 (火)  2限 (9:50~10:50)	武本真治教授 (医療工学)	<b>歯冠修復用材料</b> 歯科臨床に応用する歯冠修復材料について学ぶ。	1. 歯科臨床における歯冠修復材の選択基準を説明できる。 2. 歯冠修復材の種類を説明できる。 3. 歯冠修復材の成分および性質を説明できる。 4. 歯冠修復材の取り扱い上の注意点を説明できる。 [D-1-②、D-2-①②] 事前学習:2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
7月12日 (火)  3限 (11:00~12:00)	齊藤裕美子助教 (補綴・インプラント学)	<b>冠橋義歯学1</b> <b>クラウン・ブリッジの治療の流れ</b> クラウン・ブリッジの臨床の手順について理解する	1. 診療室と技工室での治療の流れを理解する。 2. 診療室と技工室で使用する機器や材料の特性を理解する。 [E-3-4)-(1)-①~⑬] アクティブラーニング:ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT:講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学習:クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
7月19日 (火)  7限 (16:30~17:30)	熊谷章子准教授 (法歯学・災害口腔医学)	<b>災害発生時の病院初動</b> 発災直後に歯科医師としての適切な対応ができる。	1. 業務遂行計画(BCP)の概念を説明できる。 2. 歯科治療中に災害が発生した際の適切な対応を説明できる。 3. 発災後安全に患者誘導ができる。 4. 頭頸部領域の災害傷病者に対応できる。 5. ロールプレーイングを取り入れて、発災後超急性期から急性期での医療機関における歯科医師の役割と多職種連携による災害対応について理解を深める。 [A-5-1)-②③、A-7-1)-⑥、B-2-2)-⑨、B-2-3)-①②] 事前学習:「災害歯科医学」p26-43を読み、疑問点を抽出しておくこと(所要時間60分以上)。



月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
8月2日 (火)  1限 (8:40~9:40)	衣斐美歩講師 (病態解析学)	嚢 胞	1. 発育性嚢胞について説明できる。 2. 炎症性嚢胞について説明できる。 3. 顎骨内に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 4. 軟組織に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 [E-2-4)-(5)-①] 事前学習：新口腔病理学 p182-195 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
8月2日 (火)  2限 (9:50~10:50)	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	画像診断のまとめ1 口腔領域の画像診断について修得する。	1. 疾患（下記）の画像所見を説明できる。 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞、上顎洞疾患、口腔領域の悪性腫瘍、口腔領域の炎症、骨折、唾液腺疾患、顎関節症、骨系統新患 [E-2-4)-(2)-①③④、E-2-4)-(5)-①②、E-2-4)-(6)-①②、E-2-4)-(7)-①②、E-2-4)-(8)-②~⑦、E-2-4)-(10)-⑤~⑨] 事前学習：それぞれの疾患の分類、特徴を理解しまとめておく。
8月2日 (火)  3限 (11:00~12:00)	宮本郁也教授 (口腔外科学)	嚢 胞 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞の分類、発生病因、診断、治療法を習得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞を説明する。 2. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞の治療法を説明する。 [E-2-4)-(5)] 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版 P297~326 を読み、疑問点を抽出しておくこと。(30分)
8月30日 (火)  1限 (8:40~9:40)	菅 徹也助教 (う蝕治療学)	齶蝕 歯内療法学3 根尖性歯周炎	1. 感染根管治療の治療を説明できる。 2. 感染根管治療に用いる道具を用意できる。 3. 根管治療を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：感染根管治療について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）で確認する。
8月30日 (火)  2限 (9:50~10:50)	岸 光男教授 (予防歯科学)	医療関連法規 医療関連法規を学ぶことで、臨床における歯科医師の役割を理解することができる。	1. 医療法を概説できる。 2. 医療計画を概説できる。 3. 医療機関の種類を列挙できる。 4. 歯科医師法を概説できる。 [A-7-1)-(2)、B-2-1)-①~③] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。
9月6日 (火)  1限 (8:40~9:40)	山田ありさ助教 (病態制御学)	局所麻酔薬・全身管理 歯科診療を行う上で必要な局所麻酔薬と偶発症の際に用いる主な薬物を理解する。	1. 局所麻酔薬の分類と作用機序を説明できる。 2. 偶発症の際に用いる主な薬物とその薬理作用を説明できる。 [E-1-4)-(3)-②、E-1-6)-③] 事前学習課題：作用機序と副作用についてまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月6日 (火)  2限 (9:50~10:50)	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	歯科麻酔学3 精神鎮静法 精神鎮静法の内容、各種 精神鎮静法を学ぶことで 歯科治療時における精神 鎮静法の必要性が理解で きる。	1. 精神鎮静法の内容、目的、適応、禁忌、 種類、実施法を説明できる。 2. 吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法を説明できる。 4. 静脈内鎮静法の使用薬剤を説明でき る。 [E-1-(4)-(2)] 事前学習：到達目標の内容に関し臨床歯 科麻酔学第6版(第6章)を用いて調べ ること。所要時間30分以上。
9月13日 (火)  1限 (8:40~9:40)	池崎晶二郎助教 (発生生物・再生 医学分野)	顎骨の発生・成長~その 破綻による先天性疾患を 考える ＜口腔疾患と全身3＞ 歯と顎骨の正常発生と加 齢にともなう変化、異常に ついて説明できるようにな る。	1. 骨の発生について説明できる。 2. 顎骨の発生について説明できる。 3. 大理石病、鎖骨頭蓋異形成症などの全身 的な症状とともに、顎顔面に異常が見ら れる疾患やその原因について組織学的知 識と連携させて説明できる。 [C-3-2)-①、C-3-3)-②、C-3-4)-(2)-④⑤、 E-2-3)-①④、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)- ⑤⑥] 事前学習：最新口腔外科学第5版と小児の 口腔科学4版を用いて顎骨の形態異常につ いての疾患を事前に学修しておくこと。
9月13日 (火)  2限 (9:50~10:50)	古城慎太郎講師 (口腔外科学)	顎変形症の症状、診断、治 療法を習得する。	1. 顎変形症の概念と成因について説明す る。 2. 顎変形症を説明する。 3. 顎変形症の治療法を説明する。 [E-2-4)-(1)] 事前学習 口腔外科学第3版医歯薬出版 P60~63、616 ~650を読み、疑問点を抽出しておくこ と。(30分)
9月13日 (火)  3限 (11:00~12:00)	武本真治教授 (医療工学)	合着・接着用材料 歯科用合着・接着用材料の 種類、成分、硬化機構およ び性質について学ぶ。	1. 歯科用合着材の種類、成分、特徴を説明でき る。 2. 歯科用接着材の種類、成分、特徴を説明でき る。 3. 直接修復のためのボンディングシステムの 成分を説明できる。 4. 合着、接着操作の手順を説明できる。 [D-2-⑦] 事前学習：2・3年次に使用した教科書(ス タンドアード歯科理工学、新編歯科理工学)、 レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨 むこと。講義中随時知識確認のための質問 とフィードバックを行う。
9月13日 (火)  7限 (16:30~17:30)	角保徳センター長 (歯科口腔先進医療 開発センター)	特別講義 超高齢社会の将来と歯科 医療の将来展望	1. 超高齢社会における歯科医療について説 明できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月27日 (火)  1限 (8:40~9:40)	菅 徹也助教 (う蝕治療学)	齶蝕 歯内療法学 4 根管形成	1. 根管切削器具 ISO 規格が説明できる。 2. 根管治療時の根管切削器具操作法を説明できる。 3. 根管充填が説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：根管形成について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）で確認する。
9月27日 (火)  2限 (9:50~10:50)	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	炎症の生化学 炎症を調節する細胞や分子の作用を理解する。	1. 炎症関連細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる 2. 代表的なケミカルメディエーターを列挙し、その作用を説明できる。 3. アラキドン酸カスケードを説明できる。 [C-2-1)-①③、C-5-5)-①②] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で調べて講義に臨むこと。
9月27日 (火)  3限 (11:00~12:00)	鈴木啓太助教 (歯周療法学)	歯周基本治療（要点3） プラークコントロール、スケーリング、ルートプレーニング、咬合調整、暫間固定等を復習し、歯周基本治療を理解する。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題を概説できる。 3. 歯周領域の要点を説明できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①~③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨床歯周病学3版で復習しておく。
10月18日 (火)  1限 (8:40~9:40)	入江太朗教授 (病態解析学)	歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍	1. 良性歯原性腫瘍について説明できる。 2. 悪性歯原性腫瘍について説明できる。 3. 線維性病変について説明できる。 4. 骨形成性病変について説明できる。 5. 軟骨形成性病変について説明できる。 6. 巨細胞性病変について説明できる。 7. 円形細胞腫瘍について説明できる。 [E-2-4)-(6)-②③④] 事前学習：新口腔病理学 p196-233 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
10月18日 (火)  2限 (9:50~10:50)	泉澤充准教授 (歯科放射線学)	画像診断のまとめ2 口腔領域の画像診断について修得する。	1. 疾患（下記）の画像所見を説明できる。 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞、上顎洞疾患、口腔領域の悪性腫瘍、口腔領域の炎症、骨折、唾液腺疾患、顎関節症、骨系統新患 [E-2-4)-(2)-①③④、E-2-4)-(5)-①②、E-2-4)-(6)-①②、E-2-4)-(7)-①②、E-2-4)-(8)-②~⑦、E-2-4)-(10)-⑤~⑨] 事前学習：それぞれの疾患の分類、特徴を理解しまとめておく。
10月18日 (火)  3限 (11:00~12:00)	清水 峻介助教 (う蝕治療学)	齶蝕 保存修復学 3 接着	1. 接着技法について説明できる。 2. 症例に応じた修復法、接着技法を説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：コンポジットレジン修復について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月25日 (火)  1限 (8:40~9:40)	大津圭史准教授 (発生生物・再生 医学分野)	<b>発生からみた歯の構造の 正常と異常 I</b> 歯の構造についてそれぞれ の成因から説明できる ようになる。 歯の先天的疾患について 説明できるようになる。	1. 歯胚を構成する組織と形成細胞の分化・ 基質形成過程について説明できる。 2. 歯の発生の過程について説明できる 3. 歯の数や歯冠の形態などの遺伝子疾患に 関わる病因について説明できる。 [E-2-3)-①、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)- ⑤、E-3-1)-①、E-3-2)-①、E-4-2)-①] 事前学習：歯の異常に関連した疾患につい て事前に小児の口腔科学 4 版を用いて学修 して疑問点を抽出しておくこと。
10月25日 (火)  2限 (9:50~10:50)	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	<b>骨の生化学</b> 骨リモデリングのメカニ ズムについて理解する。	1. 骨吸収因子による骨芽細胞を介した破骨 細胞の分化と成熟について説明できる。 2. 破骨細胞による骨吸収を分子レベルで 説明できる。 3. 骨形成や骨吸収と体内カルシウム動態 との関連性について理解する。 [E-2-2)-⑤⑥] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で調 べて講義に臨むこと。
10月25日 (火)  3限 (11:00~12:00)	山田浩之教授 (口腔外科学)	<b>歯原性腫瘍</b> 歯原性腫瘍の症状、診断、 治療法を習得する。	1. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍を列举 し、その特徴について説明する。 2. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍の症 状、治療法について説明する。 [E-2-4)-(6)] 事前学習 口腔外科学第3版医歯薬出版 P199~226 を 読み、疑問点を抽出しておくこと。(30 分)
11月1日 (火)  1限 (8:40~9:40)	入江太朗教授 (病態解析学)	<b>唾液腺の非腫瘍性病変と 唾液腺腫瘍</b>	1. 唾液腺の発育異常について説明できる。 2. 唾液腺の退行性・進行性病変について説 明できる。 3. 唾石症・唾液腺の嚢胞について説明できる。 4. 唾液腺の炎症性疾患について説明できる。 5. 唾液腺の自己免疫疾患について説明できる。 6. 唾液腺の良性上皮性腫瘍について説明でき る。 7. 唾液腺の悪性上皮性腫瘍について説明でき る。 8. 唾液腺の非上皮性腫瘍について説明できる。 [E-2-4)-(8)-①~⑦] 事前学習：新口腔病理学 p257-282 を読み、 疑問点を抽出しておくこと。
11月1日 (火)  2限 (9:50~10:50)	滝沢尚希助教 (歯周療法学)	<b>メンテナンス, SPT (要 点 4)</b> 歯周治療における再評価 項目内容を復習し, 定期管 理(メンテナンス, SPT) の必要性を理解する。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明 できる。 2. 歯周領域の演習問題を概説できる。 3. 歯周領域の要点を説明できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①~③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨 床歯周病学3版で復習しておく。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月1日 (火)  3限 (11:00~12:00)	森川和政教授 (小児歯科学・ 障害者歯科学)	小児歯科学3 咬合誘導(保隙処置) 保隙の適応と処置法につ いて理解する。	年齢や欠損状態に応じた保隙装置の選択が できる。 [E-4-2)-(9)] 事前学習: 静的咬合誘導法について教科書 に目を通して講義に臨むこと。 アクティブラーニング: 講義中に教員との ディスカッションの機会を設ける。
11月1日 (火)  4限 (13:00~14:00)	佐藤和朗教授 (歯科矯正学)	矯正歯科学3 矯正治療における抜歯	1. 矯正治療における抜歯の目的について説 明できる。 2. Tweedの抜歯基準について説明できる。 3. Tooth size ratio について説明できる。 4. 矯正治療における固定について説明できる。 [E-4-1-(3)] 事前学習: 歯科矯正学 p175~181 を読み、 疑問点を抽出しておくこと。
11月1日 (火)  5限 (14:10~15:10)	深澤翔太講師 (補綴・インプ ラント学分野)	有床義歯学3 床義歯製作に必要な口腔 の解剖と精密印象採得を 理解する。	1. 義歯製作に必要な解剖学的ラウンドマー クと圧負担域を説明出来る。 2. 筋圧形成に係わる筋を説明出来る。 3. 精密印象の目的と方法および手順を説明 出来る。 [E-3-4)-(2)-(5⑥⑪⑫)] 事前学習: 義歯製作における精密印象採得につ いて、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、 講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
11月1日 (火)  6限 (15:20~16:20)	下山佑准教授 (分子微生物学)	微生物学各論 病原微生物による感染症 およびその病原因子につ いて理解する。	1. 感染の概念と感染症について説明できる。 2. 病原微生物による感染症・病原因子につ いて説明できる。 [C-3-1)-(1②)、E-2-4)-(3)-(1)、 E-2-4)-(9)-(2)] 事前学習: 過去5年間の国家試験の微生物 学・免疫学に関連する問題について学 習しておくこと。
11月8日 (火)  2限 (9:50~10:50)	齊藤裕美子助教 (補綴・インプ ラント学)	冠橋義歯学2 鑄造法によるクラウン製 作 クラウン・ブリッジのワッ クスアップについて理解 する。	1. クラウンの鑄造法による製作の特徴を説 明できる。 2. クラウンのワックスパターン形成を説明 できる。 [E-3-4)-(1)-(11)] アクティブラーニング: ディスカッション 方式を取り入れた講義を行う。 ICT: 講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習: クラウン・ブリッジ補綴学で使 用したレジメ、講義ノートに目を通して講 義に臨むこと。
11月8日 (火)  3限 (11:00~12:00)	菊池和子講師 (小児歯科学・障 害者歯科学)	障がい者歯科3 症候群復習1	1. 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群 の種類と症状を説明できる。 2. 系統的骨疾患の症状を説明できる。 [E-2-4)-(10)-(5⑥)] 事前学習: 4年の講義ノートと教科書に目 を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月8日 (火)  4限 (13:00~14:00)	岸 光男教授 (予防歯科学)	<b>地域保健総論</b> 地域保健の基本概念と根幹となる法規を学ぶことで地域保健の意義を理解することができる。	1. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの違いを説明できる。 2. 保健所の業務を列挙できる。 3. 健康増進法を概説できる。 4. 地域保健法を概説できる。 [A-7-1)-④、B-2-2)-①、B-3-1)-①~④] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。
11月8日 (火)  5限 (14:10~15:10)	黒瀬雅之教授 (病態生理学)	<b>顎顔面の感覚（痛覚）</b> 顎口腔領域における疼痛を誘発する脳神経機構を理解できる。	1. 侵害受容器の種類を説明できる。 2. TRPChannel を説明出来る。 3. 歯痛について説明出来る。 4. 歯根膜感覚について説明出来る。 5. 口腔感覚の伝導路を説明出来る。 [E-2-2)-⑨] 事前学習：該当箇所について、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
11月8日 (火)  6限 (15:20~16:20)	下山佑准教授 (分子微生物学)	<b>ウイルス学</b> ウイルスの性状と感染経路、標的器官および感染症を理解する。	1. 主要な病原性ウイルスの性状・感染経路・標的器官および感染症を説明できる。 [C-3-1)-①②、E-2-4)-(9)-②] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。
11月15日 (火)  1限 (8:40~9:40)	高藤恭子助教 (補綴・インプラント学)	<b>口腔インプラント学2</b> インプラント補綴について治療の流れを理解する。	1. インプラント治療における補綴処置の流れを説明できる。 2. インプラント補綴に必要な器具、材料を列挙できる。 3. 口腔内スキャナーの活用法について説明できる。 [E-3-4)-(3)-⑥] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
11月15日 (火)  2限 (9:50~10:50)	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	<b>癌の生化学</b> 発癌、転移・浸潤のメカニズムについて理解する。	1. 癌遺伝子や癌抑制遺伝子の機能を説明できる。 2. 癌の悪性化と多段階発癌を説明できる。 3. 癌の転移や浸潤のメカニズムについて説明できる。 [C-5-6)-①、②] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で調べて講義に臨むこと。
11月15日 (火)  3限 (11:00~12:00)	大橋祐生講師 (口腔外科学)	<b>悪性腫瘍</b> 顎口腔領域に発生する悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 顎口腔領域の悪性腫瘍の臨床症状を説明する。 2. 顎口腔領域の悪性腫瘍の治療、予後について説明する。 [E-2-4)-(6)] 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版P250~296、660~716を読み、疑問点を抽出しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月15日 (火)  4限 (13:00~14:00)	泉澤充准教授 (歯科放射線学)	<b>歯科放射線学 放射線治療</b> 口腔癌の放射線治療について方法、適応に関する知識を修得する。	口腔癌の放射線治療の方法と口腔の管理を修得する。 [E-1-2)-①~③、E-2-4)-(6)-③] 事前学習：口腔癌の放射線治療の分類、適応を理解しまとめておく。
11月15日 (火)  5限 (14:10~15:10)	大畑光彦准教授 (麻酔学講座)	<b>和漢薬・特別講義</b> 歯科診療で用いることが出来る和漢薬を理解する。	1. 歯科診療で用いることのできる和漢薬を説明できる。 2. 高齢者および有病者の疾患に応じた和漢薬を選択できる。
11月15日 (火)  6限 (15:20~16:20)	藤原尚樹教授 (機能形態学)	<b>唾液腺の構造と支配神経</b> 大唾液腺の位置と支配神経を理解する。	1. 大唾液腺の位置と付近にある解剖学的構造について説明できる。 2. 唾液腺の分泌を調節する支配神経について説明できる。 3. 唾液腺の支配神経の走行と障害を関連づけて説明できる。  配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。  [E-2-2)-⑥] 事前学習：唾液腺の解剖学的特徴についてまとめておくこと。DESSに提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
11月22日 (火)  2限 (9:50~10:50)	小林琢也教授 (摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野)	<b>摂食嚥下リハビリテーション②</b> 摂食嚥下障害に対する口腔衛生管理と治療法を理解する。	1. 高齢者の口腔健康管理について説明できる。 2. 摂食嚥下障害患者に対する口腔衛生管理を説明できる。 3. 摂食嚥下障害患者に対する姿勢調整を説明できる。 4. 摂食嚥下障害患者に対する食事介助を説明できる。 5. 摂食嚥下障害患者に対する食形態の調整を説明できる。 [E-2-4)-(11)-②、E-5-1)-④⑤]  事前学習：老年歯科医学 p 212~357、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 182~195、p 196~212 を読み、疑問点を 500 字程度にまとめ発表できるようにしておくこと。
11月22日 (火)  3限 (11:00~12:00)	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>内科学 I 循環器疾患、悪性新生物・呼吸器疾患</b> 代表的な循環器疾患、悪性新生物、呼吸器疾患について理解する。	1. 代表的な循環器疾患、悪性新生物、呼吸器疾患について理解し説明できる。 [E-6-②] 事前学習：講義に関する内容を講義資料および教科書で確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する内容をまとめること。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月29日 (火)  1限 (8:40～9:40)	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>抗菌薬</b> 歯科診療を行う上で必要な抗菌薬を理解する。	1. 抗菌薬の分類、作用機序と副作用を説明できる。 2. 適切な抗菌薬の使用を説明できる。 [C-6-2)-②、C-6-4)-①②] 事前学習課題：抗菌薬の分類、作用機序と副作用についてまとめておくこと。
11月29日 (火)  2限 (9:50～10:50)	小川 淳准教授 (口腔外科学)	<b>炎症</b> 炎症の概念を理解し、歯性感染症に関する知識を習得する。	1. 顎口腔の炎症の症状、診断法、治療法を説明する。 2. 歯性感染症の概念と感染経路を説明する。 3. 顎骨骨髓炎の症状、経過、治療法について説明する。 [E-2-4)-(3)] 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版P125～162を読み、疑問点を抽出しておくこと。(30分)
11月29日 (火)  3限 (11:00～12:00)	森川和政教授 (小児歯科学・ 障害者歯科学)	<b>小児歯科学4</b> <b>小児の歯髄処置</b> 乳歯および幼若永久歯に適切な歯内療法を行うための基本的事項を理解する。	症状やエックス線画像から、診断を行い、それにふさわしい処置法を選択できる。 [E-4-2)-④, ⑤] 事前学習：小児の歯内療法について教科書に目を通して講義に臨むこと。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
11月29日 (火)  4限 (13:00～14:00)	佐藤和朗教授 (歯科矯正学)	<b>歯科矯正学4</b> <b>矯正治療のフォースシステム</b>	1. 矯正力の4Dについて説明できる。 2. 矯正力と顎整形力について説明できる。 3. マルチブラケット装置における矯正力について説明できる。 [E-4-1)-④⑤⑥] 事前学習：歯科矯正学 p225～237を読み、疑問点を抽出しておくこと。
11月29日 (火)  5限 (14:10～15:10)	田邊憲昌准教授 (補綴・インプラント学)	<b>冠橋義歯学3</b> クラウン・ブリッジの接着クラウン・ブリッジ接着について理解する。	1. クラウン・ブリッジ補綴に使用する材料と表面処理について理解する。 2. セメントの種類と特徴を理解する。 [E-3-4)-(1)-⑩] アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学習：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。



月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月29日 (火)  6限 (15:20~16:20)	澤田智史准教授 (医療工学)	<b>義歯用材料</b> 歯科臨床に応用する義歯用材料について学ぶ。	1. 歯科臨床における義歯用材料の選択基準を説明できる。 2. 義歯用材料の種類を説明できる。 3. 義歯用材料の成分および性質を説明できる。 4. 義歯用材料の取り扱い上の注意点を説明できる。 [D-1-②、D-2-②] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。WebClassに掲載の講義要旨の空欄を講義開始までに補充する。
12月6日 (火)  1限 (8:40~9:40)	原田英光教授 (発生生物・再生医学)	<b>発生からみた歯周組織の構造の正常と異常</b> 歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようになる。歯の先天性疾患について説明できるようになる。	1. 歯周組織を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯根の発生と歯根の形態異常について説明できる。 3. 歯周組織に関わる疾患に関わる病因について説明できる。 [E-2-3)-①、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤、E-3-1)-①、E-3-2)-①、E-4-2)-①] 事前学習：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学4版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。
12月6日 (火)  2限 (9:50~10:50)	森川和政教授 (小児歯科学・障害者歯科学)	小児歯科学5 <b>全身疾患を有する小児の治療</b> 全身疾患を持つ小児の歯科治療について理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べることができる。 2. 小児科との係わり方を述べることができる。 [E-2-4)-(1)-①] 事前学習：全身疾患を有する小児の治療について教科書に目を通して講義に臨むこと。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
12月6日 (火)  3限 (11:00~12:00)	深澤翔太講師 (補綴・インプラント学)	<b>有床義歯学4</b> 有床義歯領域に必要な知識を習得することができる。	1. 有床義歯の知識を再確認し、基本的な内容について説明できる。 2. 義歯の製作術式を説明できる。 [E-3-4)-(2)-①~⑭] 事前学習：義歯製作における精密印象採得について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
12月6日 (火)  4限 (13:00~14:00)	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学4</b> 全身麻酔の理論、気道確保法を学ぶことで全身麻酔を理解することができる。	1. 全身麻酔の理論を説明できる。 2. 吸入麻酔法を説明できる。 3. 麻酔導入法・麻酔維持・麻酔の覚醒を説明できる。 4. 全身麻酔における気道確保法を説明できる。 [E-1-4)-(4)] 事前学習：到達目標の内容に関し臨床歯科麻酔学第6版（第7、8章）を用いて調べる。所要時間30分以上。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月6日 (火)  5限 (14:10~15:10)	黒瀬雅之教授 (病態生理学)	<b>消化器官</b> 全身疾患の中で、消化器官の機能と病態を学び、他職種連携や在宅での診療を視野に有病者の状態を理解出来る。	1. 消化管運動の働きを説明できる。 2. 小腸粘膜の消化作用を説明できる。 3. 小腸での吸収を説明できる。 4. 大腸での吸収を説明できる。 5. 排便の機構を説明できる。 [C-3-4)-(7)-①] 事前学習：該当箇所について、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
12月6日 (火)  6限 (15:20~16:20)	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>内科学Ⅱ</b> <b>消化器疾患、代謝・内分泌、血液疾患</b> 代表的な消化器疾患、代謝・内分泌、血液疾患について理解する。	1. 代表的な消化器疾患、代謝・内分泌、血液疾患について理解し説明できる。 [E-6-②] 事前学習：講義に関する内容を講義資料および教科書で確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する内容をまとめること。
12月13日 (火)  1限 (8:40~9:40)	佐藤泰生講師 (病態解析学)	<b>全身性疾患と口腔病変</b>	1. ウイルス感染症について説明できる。 2. 細菌性感染症について説明できる。 3. 内分泌代謝障害について説明できる。 4. 栄養障害について説明できる。 [E-2-4)-(10)-②⑧⑨、E-6-②] 事前学習：新口腔病理学 p312-330 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
12月13日 (火)  2限 (9:50~10:50)	近藤尚知教授 (補綴・インプラント学)	<b>口腔インプラント学3</b> インプラントのメンテナンスと合併症について理解する。	1. メインテナンスの重要性と方法を理解する。 2. インプラント周囲炎の特徴と治療法を説明できる。 [E-3-4)-(3)-④⑦] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
12月13日 (火)  3限 (11:00~12:00)	佐藤和朗教授 (歯科矯正学)	<b>歯科矯正学5</b> <b>矯正装置</b>	1. 可撤固定式矯正装置について説明できる。 2. 各種矯正装置の適用症について説明できる。 3. 各種矯正装置の効果について説明できる。 [E-4-1-⑤⑥⑦] 事前学習：歯科矯正学 p215~262 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
12月13日 (火)  4限 (13:00~14:00)	菊池和子講師 (小児歯科学・障害者歯科学)	<b>障がい者歯科4</b> 症候群復習2	1. 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を説明できる。 2. 系統的骨疾患の症状を説明できる。 [E-2-4)-(10)-⑤⑥] 事前学習：4年の講義ノートと教科書に目を通して講義に臨むこと。
12月13日 (火)  5限 (14:10~15:10)	岸 光男教授 (予防歯科学)	<b>地域保健各論</b> 異なる対象集団に対する保健介入方法を学ぶことで、地域保健に関する応用性を身につけることができる。	1. 母子保健を概説できる。 2. 学校保健を概説できる。 3. 産業保健を概説できる。 [A-7-1)-①③、B-2-2)-①] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月13日 (火)  6限 (15:20~16:20)	James Hobbs 教授 (外国語学科英語 分野)	Chair side conversation 3 英語圏の患者に対し歯科治 療を行う際に必要なコミュ ニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①] 事前学習：Chair side conversation 2 の講義資料 を復習しておく。
12月20日 (火)  1限 (8:40~9:40)	佐藤宏明助教 (補綴・インプ ラント学)	有床義歯学 5 床義歯製作に必要な埋 没・重合・研磨の方法を 理解する。	1. 床義歯の埋没・重合・研磨の方法を説 明出来る。 2. 埋没・重合・研磨の手順を説明出来る。 [E-3-4)-(2)-⑪、⑫] 事前学習：義歯製作における精密印象採得に ついて、4年次の有床義歯補綴学で使用したレ ジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこ と。
12月20日 (火)  2限 (9:50~10:50)	菅 徹也助教 (う蝕治療学)	齶蝕 歯内療法学 5 偶発症、外科的歯内療法	1. 偶発症を説明できる。 2. 外科的歯内療法の術式を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：歯髄炎について、講義ノート、実 習書を参照。理解ができない場合は、教科書 (医歯薬歯内治療学)にて確認する。
12月20日 (火)  3限 (11:00~12:00)	清水 峻介助教 (う蝕治療学)	齶蝕 保存修復学 4 間接修復(インレー)	1. メタルインレー修復の手順について説明 できる。 2. 窩洞形成法について説明できる。 3. 症例に応じた修復法、接着技法を説明で きる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：講義ノート、実習書を参照。理解 ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復 学)にて確認する。
12月20日 (火)  5限 (14:10~15:10)	James Hobbs 教授 (外国語学科英語 分野)	Chair side conversation 4 英語圏の患者に対し歯科治 療を行う際に必要なコミュ ニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①] 事前学習：Chair side conversation 3 の講義資料 を復習しておく。
12月20日 (火)  6限 (15:20~16:20)	熊谷章子准教授 (法歯学・災害口 腔医学)	ヒトの死 終末期医療、死亡診断、死 因究明・身元調査制度につ いて理解できる。	1. 緩和医療と終末期医療について説明でき る。 2. 在宅医療における看取りについて説明で きる。 3. 死亡診断ができる。 4. 死亡診断と死体検案の違いを説明でき る。 5. 日本の死因究明・身元調査制度と歯科医 師の関わりについて説明できる。 [A-1-1)-②③、A-1-2)-①②③④、A-4-2)-① ③、A-5-1)-②③⑦、C-5-7)-①] 事前学習：法歯科医学 p6-15 を読み、疑問点 を抽出しておくこと(所要時間 30 分以上)。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
1月10日 (火)  1限 (8:40～9:40)	藤原尚樹教授 (機能形態学)	<b>嚥下と筋</b> 頬、舌、口蓋帆の筋の走行とそれぞれの関係性や機能から、嚥下を解剖学的に理解する。	1. 咽頭を構成する筋肉を説明できる。 2. 口輪筋と頬筋の関係を説明できる。 3. 舌の動きに関わる筋を説明できる。 4. 口蓋帆の筋の走行と機能を説明できる。 5. 嚥下のステージと関与する筋群の関連を説明できる。 [E-2-1]-⑨、⑩]  配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。  事前学習：嚥下の各ステージと筋肉の関係をまとめておくこと。DESS に提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
1月10日 (火)  2限 (9:50～10:50)	小林琢也教授 (摂食嚥下・口腔リハビリテーション学)	<b>摂食嚥下リハビリテーション③</b> 摂食嚥下障害を持つ患者への対応を理解する。	1. 摂食嚥下障害に対する対応について説明できる。 2. 多職種連携による様々な対応について説明できる。  [E-5-1)-⑤⑥⑦、G-4-①②③]  事前学習：老年歯科医学 p 353～372、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 214～233 老年歯科医学 p 262～298 を読み、疑問点をまとめておくこと。
1月10日 (火)  3限 (11:00～12:00)	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔学 5</b> 顎口腔領域の疼痛および麻痺性疾患を学ぶことで疼痛管理の重要性を理解することができる。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性疾患を説明できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状及び治療法を説明できる。 3. 顔面神経麻痺の概念、症状及び治療法を説明できる。 4. 星状神経節ブロックの適応、方法及び合併症を説明できる。 [E-1-4)-(3)] 事前学習：到達目標の内容に関し臨床歯科麻酔学第6版(第14、15章)を用いて調べる。所要時間30分以上。
1月10日 (火)  4限 (13:00～14:00)	岸 光男教授 (予防歯科学)	<b>社会保障</b> 社会保障制度を理解することで適切な保険診療を提供することができる。	1. 社会保障の分類を列挙できる。 2. 医療保険制度を概説できる。 3. 公費医療制度を列挙できる。 [B-2-2)-①～⑤] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。
1月10日 (火)  5限 (14:10～15:10)	黒瀬雅之教授 (病態生理学)	<b>腎臓</b> 全身疾患の中で、腎臓の機能と病態を学び、他職種連携や在宅での診療を視野に有病者の状態を理解出来る。	1. 腎臓の濾過機能を説明できる。 2. 腎不全の病態を説明できる。 3. 腎不全の症状を説明できる。 [C-3-4)-(10)-①②③、E-6)] 事前学習：該当箇所について、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
1月10日 (火)  6限 (15:20～16:20)	千葉俊美教授 (関連医学)	内科学Ⅲ 腎疾患、精神疾患 代表的な腎疾患、精神疾患 ついて理解する。	1. 代表的な腎疾患、精神疾患について理解し説明できる。 [E-6-②] 事前学習：講義に関する内容を講義資料および教科書で確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する内容をまとめること。
1月17日 (火)  1限 (8:40～9:40)	藤原尚樹教授 (機能形態学)	顎関節と咀嚼筋の解剖 顎関節の形態を咀嚼様式から理解する。	1. ヒトの顎関節の特徴を説明できる。 2. 咀嚼筋の起始停止部位に基づいた機能について説明できる。 3. 顎運動と咀嚼筋との関連を説明できる。 [E-2-1)-⑥]  配布資料に書き込みながら、演習形式で要点をまとめる。  事前学習：顎関節の構造、咀嚼筋の起始・停止、下顎限界運動についてまとめておくこと。DESS に提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
1月17日 (火)  2限 (9:50～10:50)	川井 忠講師 (口腔外科学)	顎関節疾患 顎関節疾患の症状、診断、治療法を習得する。	1. 顎関節症の概念と成因を説明できる。 2. 顎関節症の分類と治療法を説明できる。 3. その他の顎関節疾患を説明できる。 [E-2-4)-(7)] 事前学習： 口腔外科学第3版医歯薬出版 P327～376 を読み疑問点を抽出しておくこと。(30分)
1月17日 (火)  3限 (11:00～12:00)	近藤尚知教授 (補綴・インプラント学)	口腔インプラント学4 口腔インプラント治療に必要な総合的な知識を習得する。	1. インプラントの基礎知識を再確認し、材質と基本構造を説明できる。 2. インプラント治療の流れを説明できる。 3. インプラントオーバーデンチャーについて説明できる。 [E-3-4)-(3)-①～⑦] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
1月17日 (火)  4限 (13:00～14:00)	田邊憲昌准教授 (補綴・インプラント学)	冠橋義歯学4 CAD/CAM 冠と光学印象 CAD/CAM 冠と光学印象について理解する。	1.CAD/CAM 冠の製作法を理解する。 2.光学印象を理解する。 [E-3-4)-(1)-①～⑬] アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS 演習を行うこと。 事前学習：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
1月17日 (火)  5限 (14:10～15:10)	清水 峻介助教 (う蝕治療学)	齶蝕 保存修復学5 直接修復(コンポジットレジン修復)	1. コンポジットレジン修復の手順について説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：コンポジットレジン修復について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。
1月17日 (火)  6限 (15:20～16:20)	武本真治教授 (医療工学)	成形修復材-コンポジットレジンを中心に レジンに無機質フィラーが配合された複合レジンならびにそれ以外の成形修復材料の構成と特性を理解する。	1. 複合レジンの構成、成分を説明できる。 2. 成分モノマーの特徴を説明できる。 3. 補強材としてのフィラーの種類、特徴を説明できる。 4. 間接修復用コンポジットレジンの特徴を説明できる。 5. 支台築造材の特徴を説明できる。 [D-1-①、D-2-①] 事前学習：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。WebClass に掲載の講義要旨の空欄を講義開始までに補充する。
1月17日 (火)  7限 (16:30～17:30)	James Hobbs 教授 (外国語学科英語分野)	Chair side conversation 5 英語圏の患者に対し歯科治療を行う際に必要なコミュニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーションが取れる。 [A-7-2)-①] 事前学習：Chair side conversation 4 の講義資料を復習しておく。

## 2022 年度 5 年 DESS 演習 (必ずお試し演習で予習してから各演習に臨むこと)

### 空き時間利用演習

臨床実地問題：4 月出題 (各正答率 8 割以上で合格)

9 月末までに全て合格すること。(後期総合試験の受験資格、不合格の場合 5 月以降に再演習)

必修・一般問題：5 月出題 (基礎・臨床、各正答率 8 割以上で合格)

翌年 1 月末までに全て合格すること。(後期総合試験の受験資格、不合格の場合 6 月以降に再演習)

### 講義室演習 (臨床実地および必修問題)：各正答率 8 割以上で合格

翌年 1 月末までに全て合格すること。(後期総合試験の受験資格、不合格の場合再演習)

(網掛けは臨床実地問題)

実施日	出題数	臨床実地および必修 (基礎・臨床)		
5 月 28 日(土)	173	修復 (57)	歯内 (54)	歯周 (62)
6 月 25 日(土)	197	有床 (102)	クラブリ他 (95)	
7 月 23 日(土)	153	口外 I (80)	口外 II (73)	
8 月 27 日(土)	122	小児 (113)	高齢者 (9)	
9 月 24 日(土)	147	矯正 (88)	放射線 (30)	麻酔 (29)
11 月 26 日(土)	268	必基① (89)	必基② (71)	必基③ (108)
12 月 24 日(土)	272	必臨① (98)	必臨② (99)	必臨③ (75)
1 月 28 日(土)	演習予備	予備	予備	予備

#### 必修問題の内訳：

必基①：解剖・組織・生理・生化・病理、

必基②：細菌・薬理・理工、

必基③：衛生、

必臨①：修復・歯内・歯周・有床・口外・クラブリ、

必臨②：高齢者・歯放・歯麻、

必臨③：小児歯科・矯正

## 週間復習試験日程

当該週の火曜日行われた講義内容に関する復習試験を以下の日程で実施する。

実施は原則として金曜日の8時限の17:30から18:30とする。

1	4月22日	7	6月10日	13	8月19日	19	11月15日	25	1月13日
2	4月28日	8	6月17日	14	9月2日	20	11月25日	26	1月20日
3	5月13日	9	6月24日	15	9月20日	21	12月2日		
4	5月20日	10	7月1日	16	10月18日	22	12月9日		
5	5月27日	11	7月8日	17	10月25日	23	12月16日		
6	6月3日	12	7月15日	18	11月8日	24	12月23日		

## 月間復習試験日程

当該月の火曜日行われた全講義内容に関する復習試験を以下の日程で実施する。

実施は土曜日の1時限の8:40から9:40、または平日の講義が全て終了した後の時間帯(60分)とする。

1	5月28日	3	7月23日	5	9月24日	7	11月26日	9	1月28日
2	6月25日	4	8月27日	6	11月1日	8	12月24日		

## 成績評価方法

- ・定期試験は各科目を統合した総合試験とする。
- ・総合試験(前期、後期)を90%とし、同日受験総合試験(2回分)、週間および月間復習試験を10%として評価する。
  - \*前期総合試験と後期総合試験の点数配分 前期:後期=40%:50%
  - \*判定基準は総合試験、週間および月間復習試験の合計が65%以上を合格とする。

## 総合試験の受験資格1(出席)

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる前期試験の受験資格を認める。

- ・4~7月の当該科目の出席(講義およびDESS最終演習)が5分の4以上であること
- ・4~7月に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・4~7月に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・同日受験総合試験(第6学年第1回総合試験)を受験していること

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる後期試験の受験資格を認める。

- ・8~1月の当該科目の出席(講義およびDESS最終演習)が5分の4以上であること
- ・8~1月に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・8~1月に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・同日受験総合試験(第6学年第3回総合試験)を受験していること

## 総合試験の受験資格2(DESS演習および必修試験)

以下の条件をすべて満たした場合に、必修試験に係る後期試験の受験資格を認める。

- ・必修試験2回の成績が各80%以上
  - \*上記各試験で不合格になったものは、再試験を受験し、後期試験前までに80%以上得点し合格することを原則とするが試験結果により合格水準および試験内容を変更することがある。

以下の条件をすべて満たした場合に、DESS演習に係る後期試験の受験資格を認める。

- ・空き時間利用演習(4月臨床実地、5月基礎・臨床)及び講義室演習の成績が80%以上
  - \*上記各試験で不合格になったものは、再演習を受験し、後期試験前までに80%以上得点し合格することを原則とする。